

Shaving Beauty Philosophy

剃っても濃くならず！
女性客にバシッと言い切る
ディフェンス創答力。

Web Study Series vol.4

シェービングビューティ伝道家

吉田昌央



“シェービングは肌を傷める”とは真逆。

世の風潮や偏見に惑わされず「言い切る」ために！

世の風潮や偏見に惑わされず「言い切る」ために！

この分野なら負けない「軸」を持つ。

「ソフトシェービングは肌に優しい」、「ガード刃は肌に優しい」などは言葉のインチキです。そもそも「シェービングは肌を傷めるもの」という考えに立脚したものであり、見下したシェービング観です。著名人の美肌著書やマスコミの語り口に踊らされる、いわゆる“美肌命の意識”もシェービングを斜に見る要因となっています。

シェービングとは何か、どのような状態を表すのか？シェービングのプロを自覚するならば、それを直視しなければなりません。しかも直球で！ここが弱いとすべてが無意味。正論も俗説に屈します。それに携わる者がいちいちブレてはいけません。

だからこの際、シェービングを陥れる風評を断ちます。キレイな素肌でいたいのなら肌に直接刃物をあてがうシェービングなんてもつての外、いいえそうではありません。キレイな素肌こそシェービングから。美しく正しいシェービングがすべての女性の素敵な素顔を約束します。「だったら剃るな、でも剃るよ！キレイに正しく剃るよ！」。

狭くても一番の「型」が突破力となる。

繰り返し何度も提言します。

プロが行うシェービングとは「肌をいささかも傷めることなく、剃刀で体毛のみ滑るように切る行為である」これが美しく正しいシェービングの正当な型で

す。世間の多くは「シェービングは肌を傷める」と勘繰りますが、それは真逆であり「肌を傷めるような剃り方をするからダメ」なのです。

美しく正しいシェービングは肌を傷めるものではありません。技術的には体毛を剃る（正確には毛を切削）ことを目的とするので、肌を傷めるようではプロのシェービングと呼ばれません。料理人の包丁と腕前の相関と同様、適切な道具と正しい技術が備わって真つ当なサービスと化します。

業界内ではよくピーリング効果をそれっぽく掲げていますがこれも言葉のインチキです。シェービングはピーリングではありません。

ピーリング（ケミカルピーリング）とはフルーツ酸などの薬剤で皮膚の角質を「剥く・剥がす」医療行為です。当然、肌への負担も大きくトラブルになるケースも多発します。「シェービングも角質を取るからイコール・ピーリング」と、安直にお客様に説明する現場技術者がいます。シェービングは施術の過程で皮膚最上層部を除去することはあっても、皮膚を剥がすことを目的とはしていません。シェービングは「毛を剃る」ものであり、プロならば「肌をいささかも傷めることなく」施すべきです。

ピーリング効果をモノマネする前にシェービングの本流を語れ！上辺だけの情報を鵜呑みにするな！まして我々は医師ではあるまい。コンプライアンスの観点からも薬事・医療に抵触する行為を易々と表示することもご法度です。理容師法・美容師法の関わる法令の下で美の提案に徹しなければならないので

す。シェービングの価値をねじ曲げる風潮はそれに携わる者の責任でもあります。

突き詰めると、美しく正しいシェービングの型は「滑る」に近くなります。断じて、「剥く」「削る」「抜く」「刈る」であってはなりません。真の「剃る」とは毛を「切る」のであり、その究極は「滑らかに切る」＝「切滑(せっかつ)」する姿となるでしょう。

間違いだらけの「ダメ剃り」を教える。

巷は肌を傷めるような剃り方「ダメージシェービング(通称:ダメ剃り)」ばかり！女性は一応、美肌の知識はあります。スキンケアやヘアケア、美容コスメなどの情報が氾濫し、各種雑誌やネットで簡単に手に入るからです。ところが女性のためのシェービングについては、自分で「剃る」事に関してはどうでしょう。なんとなくついには知った情報で我流にやっではないでしょうか。

身近に感じながらも誰も正確に、的確に伝授していなかったのです。そう無知なのです。知っているようで実は知らなかったことが何とも多い！「シェービングは肌を傷める」という偏見は「肌を傷めるような剃り方だから」がその実体。その誤解は日常生活のいたるところで垣間見えます。

右の事例などよくある光景です。知らなすぎて損をしています。プロがセルフシェービングのアドバイスを発信することは大いに結構。「お家でもカンタンにできる」点を一言添えればいい。「そんなことしたら

日常に潜む「ダメージ・シェービング」

これが通称“ダメ剃り”だ！

- 安価なカミソリを使う
- 「直剃り」する（肌にも何もつけずに剃ること）
- 道具を取り替えず刃こぼれするカミソリを使う
- 力任せに剃っている（いわゆる「一気剃り」）
- 同じ箇所をガリガリ、何度も擦りつけるように剃る
- 腕や脛など毛流に逆らいきなり逆剃りから始める
- 肌を湿らせず乾いた状態で剃っている
- 剃ったら剃りっぱなし、保湿していない
- シェーバーを洗わない
- 時間をかけずに慌てて剃る
- 刃を立てるように剃っている（T字型カミソリ）
- 軽いカミソリを使う
 - ※刃が肌から浮いて剃り残す、ゆえに何回も剃ってしまう、重さも大事
- 鏡を見ないで(正対しない)剃る
- カミソリをよく落とす（刃こぼれの原因）
- 日焼けしている時に剃る
- ピーリング、脱毛などの直後に剃る（その逆もあり）
- 剃ってすぐまた剃ることを繰り返す
- アカスリ後に、ヒリヒリしている肌状態で剃る
- 正しい知識、技術を持たず適当に剃る
- シェービング後に電動式脱毛器を使う

..など、あげたらきりが無い！

利用客が減る」なんて狭い見は無意味。サロンの存在意義とは、女性がシェービングへの関心を持ち深めるための裾野を広げる事なれば。

「毛は濃くなりません」バシッと言い切ろう！

「シェービングすると毛は濃くなるの？」おそらくこの質問は女性であれば誰もが必ず口にします。

「いいえ、毛は濃くなりません！」女性のお顔剃りは日に何度も同じ箇所をガリガリ剃るようなことはしません。まして男性の髭剃りとも違って毎日「伸びた髭を剃る」わけでもありません。

あなたも毛が濃くなってしまおうような技法も通常用いることはないでしょう。例えば女性が月に数回、顔のうぶ毛を剃ったからといって、毛が濃くなることはありえません。男性も女性も加齢のために体毛が濃くなることはありますが、シェービングによって毛が濃くなる因果関係は、科学的かつ医学的にも根拠の無いものとされています。

ではなぜ「毛が濃くなる」心配事は一向に無くならないのか。それは女性が腕や脚(脛)の毛を剃る、いわゆるボディシェービングの実感と混同しているためです。普段から「顔は剃らないけど手足は定期的に自分で剃る」女性は多く、実は「顔」より「手足の毛剃り」がセルフシェービングの主流なのです。

腕や脚などの体毛は頭髮の毛質に近く、顔のうぶ毛よりも目視できたくて硬い。比較的硬い体毛を剃ると毛の断面が大きくなり角が出来やすくなります。

その分、伸びると太く黒々と見えてチクチクもします。今度は剃った毛の根元部分の太さが毛先となるため(衣類など擦れるうちに先細りしますが)当然ながら、剃る前の毛よりも「太く濃くなったように」感じるのです。この経験知が手足の毛と同じように「顔剃りすると毛が濃くなる」ものと錯覚してしまうのです。

女性のための「シェービングビューティ」を提唱するなら「毛が濃くなる」心配事は永遠につきまとう論調です。このような誤解などにもブレずに堂々と対峙すべきでしょう。大事なのは安心感を与えられ、かつ合点が行くかです。低レベルな知識で不安をあおったり、見当違いな対応は禁物。「言い切る」ことはサロンのディフェンスを強固にすることと置き換えられます。それこそが実践に裏打ちされた真のアドバイスです。シェービングを知っているようで知らない女性客にとっては心強い存在となります。

「あえてやらない戦略」もセンスのうち。

シェービングサービスに女性客が望むのは「シェービング」であり「エステ」ではありません。「どこをどのくらい剃ってくれるのか」という一点に集約され、それを期待しています。実際には施術上「剃るだけで終わり」とはならず心地よいシェービングに努め、しっとり保湿をして仕上げます。

ある女性編集者の感想に「剃ったところから潤う感じがたまらない」とありました。期待感以上の出来栄に歓喜し、再来し、ファンとなる。中には「エステは他

でやっているから顔だけ剃って」という方もいます。シェービングできる場所が無いから、他では手に入らないからわざわざやってくるのです。

ここにマーケティングの答えがあります。

一方で「エステといっしょにやってよ」「組み合わせよう」「もっと新しいことやってよ」という声もあります。提供する側は往々にして「毎回同じではお客様が飽きる、マンネリになるから」と、施術のバリエーションを増やして横方向にあれもこれもとなります。無計画な願望、これがいけません。

お客様の声は大事、しかし丸呑みでは能がありません。一人二人の声を過大に持ち上げてはいけません。むしろ重視すべきは圧倒的多数は何を物語るのか読み取ること、声なき声を見抜く感度を研ぎ澄ますことです。支持する大多数のお客様というのは大抵は無言です。しかし「売上」という形で返してくれます。

サロンの現場ではシェービング以外についつい多種多様な施術を取り入れてしまいます。品目を増やせばそれだけ狙いがぼやけて散漫になります。知らないうちに競争の要因を呼び寄せ、いずれエステティックサロンと同化します。強みを自ら放棄してしまうやり方でしょう。

中途半端にメニューを増やしたところで勝ち目はありません。ハッキリ言って「飽きる」「マンネリ」するのは技術者であってお客様ではありません。よく考えても月数回の来店・施術で飽きるでしょうか。むしろそれを欲しがらるから足繁く通うのであり、本当に飽

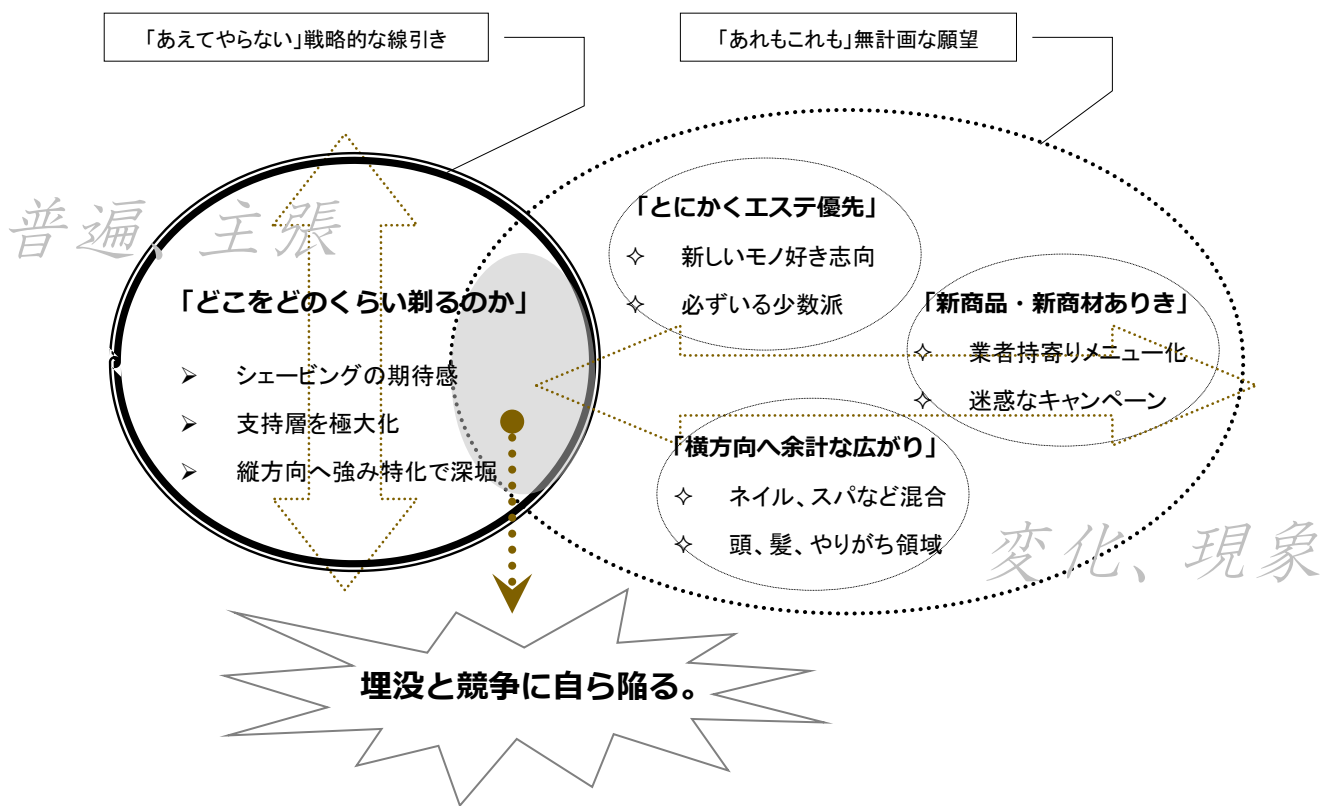
きたお客様ならもう来店しません。目指すのはマンネリの上を行く普遍的な“黄金パターン”です。それは究極のワンパターンをも指します。施術構成を「あれもこれも」と拵げず、シェービングビューティを主体としたサービスの型をまず創り込み、サロンの持ち味を決めます。女性お顔剃り専門が唯一無二の看板なら、もっとシェービングを縦方向に究めること。前述の「5つのエレメント」を見ても、ひとつひとつの工程には技術的に深められる余地は大いにあります。

エステティックの技術も「シェービングの前後に施す」との条件を加えて選定します。器具を用いる施術など、シェービングビューティには相応しくないものもあります。女性のための美しく正しいシェービングを軸足に、「エステ優先シェーブ蚊帳の外」の関係を逆転させ、「エステに吞まれず、エステを広義で捉え局所応用する」戦略思考が重要です。

また、業者が持ち寄る新商材をそのままメニューにして品揃えばかり増やしているようでは、センスゼロです。雑多なメニュー構成もジコマン色が漂い結果的にお客様を迷わすだけ。すべては「メイド・イン・サロン」となるよう的を絞って技術を「商品化」しましょう。戦略上「あえてやらない」「手を付けない」ことを明確にすれば大局がブレません。お客様が髪を切りたいのなら美容室を、本格エステを望むのならエステティックサロンを紹介すればいい。シェービングを深め、やるべきことをやる。「それだけでいい」のです。

女性のためのシェービングに専門性を特化するなら、ここはゆずれない線引きです。

➤ 「あえてやらない」とは主体性の防衛ラインである！



女性客がとくに気にする「7つの質問」!

Shaving Question Top.7

- Top.1 「毛を剃ると濃くなるの?」
- Top.2 「どのくらいのペースがいいの?」
- Top.3 「シェービングするとどうなるの?」
- Top.4 「かぶれたりしないの?」
- Top.5 「シェービングしたらそれだけなの?」
- Top.6 「拳式何日前がいいの?」
- Top.7 「自分で剃るのと何が違うの?」

※専門店ご利用のお客様調べ

- ★ 女性客はシェービングの専門家に対して事例にある通り、素朴でありながら核心を突いたことを訊いてきます。口には出さなくとも疑問や不安に思う点は概ね7つに集約され、プロの観点からは女性客が「訊いてきたら答える」以上に、「訊かなくても答えを見せる」能動的な姿勢が求められます。的確な回答やアドバイスはサロンのベストアンサーとして書き記すなど、女性客目線の徹底したやり方が功を奏すでしょう。技術を磨くと同時に情報も磨く、内なる努力も重要です。
- ★ さらにそれらをわかりやすく翻訳し、目に見えて手にとる「読み物化／プリントコミュニケーション」もまた有効打となります。上記7つの質問に対して、あなたのサロンならどのようなベストアンサーを用意しますか。「シェービングのQ&A」はここを押さえてこそ本領を発揮できます。

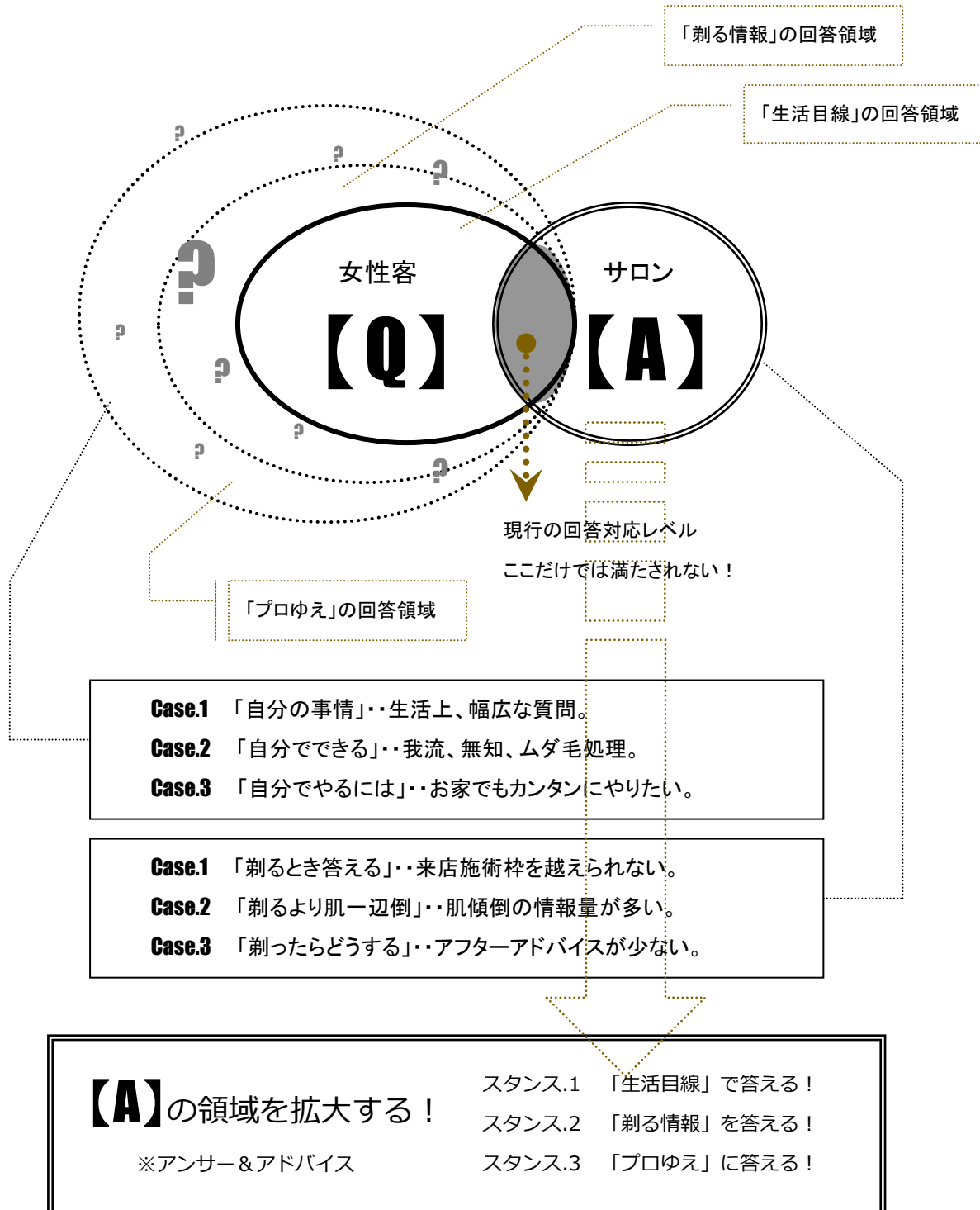
安心感を与え合点の行く「創答」なり!

- ★ 「女性のためのシェービング」の普遍性を「Q&A」にまとめると普段の施術サービスが言語化され提供する側も改めて理解できるようになります。こちら側はごくあたり前の事柄でも、お客様にとっては不安極まりなく、まだまだ知らないことも多いもの。これが初めてのシェービングならなおさらそう。予約の電話口で延々と質問をしてくる女性もいます。それだけ「女性のシェービング」とは身近にありながらも未知なる美観なのです。
- ★ 起こりうるであろう質問にはプロの経験値から先回りに想定し、「お客様にとっての正解」そのストライクゾーンを研ぎ澄まします。この妙味は誰も教えてくれません。教科書に載っていない現場ならではの「答え」を自ら創出しなくてはなりません。女性は自分の生活パターン中心の質問を浴びせます。返答に窮することもしばしあるでしょう。同様の質問であっても答え方や言い回しに強弱をつけることも肝要です。つまり「お客様にとっての正解」とは、「お客様を受容し価値観を尊重する解答」とも言い換えられます。その上でお客様へのアンサーやアドバイスは常にシェービングビューティを軸とし、徹することで専門店の主体性を明確にします。不安感をあおったり、中途半端に評論したり、美容雑誌の風潮にも安易に流されてはいけません。プラス思考の回答に努め、プロならではの対応力を高めます。それは女性客の「Q:クエスチョン」に対して「A:アンサー」の領域を拡げる、想像力を豊かにすることなのです。

* * *

Answer & Advice 積極的な包囲網。

- 「シェービング」は、女性客は知ってるようで知らない、サロンは答えているようで答えきれていない！



Points!

- あなたはシェービングを直視しているか!? 強い信念を持ち得ないと世間の俗説に屈する。デイクフェンスを磨き「言い切る」ことは女性客にとっても心強い。実践に裏打ちされた真のアドバイスとなる。
- プロが「お家でもカンタンにできる」剃るコツを伝えれば、シェービングビューティの裾野は広がる。サロンで行うだけがシェービングではない。
- 「無計画な願望」で新メニューを乱発させるといづれ方向性を見失う。一人二人のお客様の声に過剰反応しては軸無し体質と化す。メニュー開発と戦略は、売上構成の「圧倒的多数の声無き支持層」に注視する。また「メイドイン・サロン=独自化」「あえてやらない=線引き化」の思考法も重要。
- 施術や接客の快・不快、技術者の経験の程度に関わらず、評判の悪さとは「店に付く」。暗黙の内に蔓延るサロンの「損得勘定意識」を捨て去り、お客様目線に立つ快適なサービスの質的向上を目指そう。



新たな考え方を「知る」⇒出来ることから即「実践」⇒主体を明確にして「発展」

女性のためのシェービングサービスに、ためらいやこれまでの習慣が邪魔をして「やらないで悩んでいる」とするならば、私は「シェービングビューティー」を伝道する役割として、あなたのサロンのために後押しできます。自信さえ持てれば「意思決定」できます。そう難しいものではありません。

業界の常識は「非常識」⇒埋もれる価値を「精練」⇒独自路線で「業態」を創る

技術をいくら習得しようとも、女性客の支持がなければ「そこそこ」で終わってしまいます。レディースシェービングは唯一無二の技術サービスでありながら、なぜ日の目を見ないのでしょうか。私は「シェービングビューティー」を提唱することで、凝り固まった業界常識を破壊できます。新たな概念をともに創り上げてみませんか。実は、それはとても楽しい事です。

【シェービングビューティ伝道家:吉田昌央オフィス】

LLC.YOSHIDA PROJECT

直通 **050-5822-8289**

[メール相談] info@shaving-beauty.com

[URL] <http://www.shaving-beauty.com>

ご意見、ご感想、ご要望から、
その後の現場を活性させるサロンコンサルティング、
サロン営業企画支援、講師依頼など
お気軽にお問合せください。

今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。